様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ０２９６０

研究課題名（和文）ナショナルアイデンティティによるリバタリアニズム的公正観促進効果の検討

研究課題名（英文）Examining the Effects of National Identity on Promoting Libertarian Views of Fairness

研究代表者
今在　慶一朗（Kei-ichiro, IMAZAI）

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：４０３５９５００

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：集団への帰属意識が強い人は他のメンバーに対して好意的な態度をとりやすいと考えられると同時に、集団の活動を正当化する傾向も強いと考えられる。これを一国の社会にあてはめると、ナショナルアイデンティティが強い人は、社会の中の不遇な人々への支援を必要と感じると同時に、社会が公正である以上不遇である責任はその人たち自身にあると考えやすいと推測される。アンケート調査の結果、ナショナルアイデンティティの一種である愛国心は、国家機関が公正であり、人々は自分の現状に責任を持つべきだと感じさせることが確認された。これは、ナショナルアイデンティティには社会的弱者への支援を抑制する効果があることを示唆している。

研究成果の学術的意義や社会的意義
現代はグローバル化が進んだ一方で、自国中心主義的で排他的な人々の活動も盛んであり、インターネット上では日常的に「ネトウヨ」の発言を確認することができる。こうした人々は自国や自国民を大切に思ういわゆる「愛国主義者」であると考えられるが、同時に「愛国主義者」にしばしば見られる「保守主義者」は、しばしば生活や経済的成功について「自己責任」を強調する者も多いように思われる。本研究では、愛国心が社会的弱者の支援につながりやすいと同時に、自国の現状を肯定し、国が公正に機能している以上、不遇な状況にある人はその人自身が責任を負うべきであるという規範をもたらしやすいことを確認した。

研究成果の概要（英文）：It is thought that people with a strong sense of belonging to a group are more likely to have favorable attitudes toward other members, and at the same time, they are more likely to justify the group's activities. Applying this to a national society, it can be inferred that people with a strong sense of national identity feel the need to support the disadvantaged members of society, and at the same time, they are more likely to believe that they themselves are responsible for their disadvantage because the society is fair. The survey results confirmed that patriotism, a type of national identity, makes people feel that state institutions are fair and that people should take responsibility for their current situation. This suggests that national identity has the effect of inhibiting support for the socially vulnerable.

研究分野：社会心理学

キーワード：ナショナルアイデンティティ　自己責任　公正感

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

1980 年代以降, イギリス, アメリカ, 日本などで新自由主義的な経済政策が展開されてきた。新自由主義的政策は保守的な政治家や政党によって導入されたが, 元来, 保守的な考え方は必ずしも新自由主義の主張と一致するわけではない。保守的な考え方を持つ人は, 同胞を支援するべきと主張しやすいと考えられるが, そのような政治的態度は, 国家による福祉サービスの縮小を求める新自由主義思想とは相いれない。

このような新自由主義と保守主義が同時に保持される政治的態度を社会心理学の観点から考えると、国という集団に同一化している人々は、元来、他の内集団成員を外集団成員よりも好意的に捉えるはずであるにもかかわらず、内集団成員に対する援助については否定的であるという状態であると考えられる。内集団成員に対する否定的態度が生じる原因としては「黒い羊効果」がある可能性がある。これは内集団では劣った他者を集団の価値を低下させるいわゆる「面汚し」として排除しようとする現象である。仮にこの理論が説明力を持つとすれば、ナショナルアイデンティティが強い人ほど社会的弱者を否定的に捉えるということが予測される。

また、別の説明として、手続き的公正感による効果が考えられる。手続的公正の研究では、人々は、物事の結果に至るまでのプロセスの公正さに関心を持っており、結果がどのようなものであっても、プロセスが公正であればその結果は受容されやすくなるということが繰り返し確認されてきた。この手続的公正研究を当てはめると、ナショナルアイデンティティが強い人は、内集団バイアスにより自分が所属する国や社会を公正な社会であると感じやすいため、公正な扱いを受けているはずの国民は、結果としてどのような状態であっても、その責任は当事者に帰属されると見なしやすくなると考えられる。

２．研究の目的

こうした予測から、本研究では、ナショナルアイデンティティと自己責任規範の関係について検討、確認することを目的とした。また、心理的変数間の関係を検討するにあたり、必要な尺度を構成することとした。

３．研究の方法

２回の質問紙調査を行った。１回目は主に尺度校正を行うために暫定的な質問項目を作成し、調査を行ったが、得られたデータから尺度の信頼性を確認し、予備的な分析を実施した。

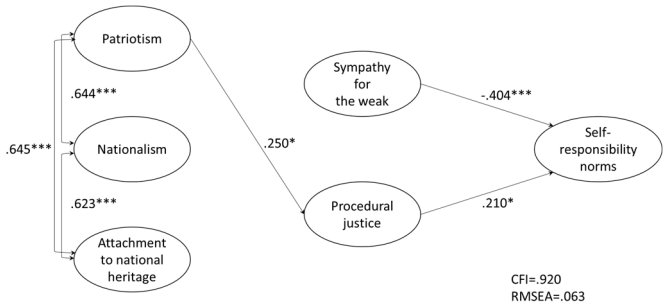
第１回調査の概要は次のとおりである。札幌市に居住する、令和３年８月１日時点で満１８歳以上、８５歳以下の男女個人を対象とした。対象地区は札幌市中央区・北区・西区・豊平区であった。質問紙の配布数は各区１５０件合計６００件で、回収数は２３７件（回収率３９．５%）であった。札幌市４区の選挙人名簿から、系統抽出・割当法により調査対象に該当する６００名を抽出し、郵送により配布、返信用封筒で回収を行った。

２回目の調査では、１回目の調査で得られたデータを基に、質問項目を再検討し、規模を拡大して行った。北海道６都市に居住する、令和４年１１月１日時点で満１８歳以上、８５歳以下の男女個人を対象とした。対象地区は札幌市（中央区・北区・西区・豊平区）、旭川市、函館市、釧路市、岩見沢市、帯広市であった。質問紙の配布数は札幌市４区および各都市　各１５０件合計 1,350 件で、回収数：５３１件（回収率３９．3%）であった。札幌市４区および各都市の選挙人名簿から、系統抽出・割当法により調査対象に該当する 1,350 名を抽出し、郵送により配布、返信用封筒で回収を行った。

４．研究成果

現在、第１回目の調査で得られたデータを基に、尺度構成を行い、分析した結果の一部を論文としてまとめたものが公開された。

主要な分析結果は下記に示した図の通りである。まず、ナショナルアイデンティティに関する「愛国心」「国家主義」「伝統的遺産への愛着」は相互に関連しているが、「愛国心」のみが「手続的公正感」を強め、間接的に自己責任規範を強めることが確認された。また、ナショナルアイデンティティが「社会的弱者への共感」を強めることは確認されず、「社会的弱者への共感」は単独で自己責任規範を抑制することが確認された。このことから、愛国心は国の機関が公正に機能しているという印象を与え、それ故に社会的弱者が置かれた状態はその人自身の責任において解決されるべきものであるという規範につながりやすいことが確認された。



なお、第二回目の調査で得られた結果については分析を継続している。

この他に、ナショナルアイデンティティ尺度で測定できる変数の性質を

調べるために、回答者が「日本人らしい」と感じる他者の特徴に関する分析を行った。この結果、特に日本人らしさを感じさせる特徴は「日本語が話せる」ということであった。これは、分業と流動性が高まった近代社会においては、正確な意思疎通のために、共通の読み書き能力を基礎とした一つの文化が形成され、人々はそのような社会に同一化するとしたゲルナーの主張や、国民という共同体は出版によって誕生したとするアンダーソンの主張にも一致する結果といえる。

		全然日本人らしくない	あまり日本人らしくない	どちらでもない	やや日本人らしい	非常に日本人らしい
肌の色がペールオレンジ		1	1	111	103	20
	%	0.4	0.4	47.0	43.6	8.5
瞳が黒い		2	2	90	110	35
	%	0.8	0.8	37.7	46.0	14.6
日本語が話せる		1	0	36	82	119
	%	0.4	0.0	15.1	34.5	50.0
国籍が日本		1	1	44	84	110
	%	0.4	0.4	18.3	35.0	45.8
日本の習慣やルールを守る		1	1	28	107	100
	%	0.4	0.4	11.8	45.1	42.2
日本の文化や事情に詳しい		1	10	97	99	34
	%	0.4	4.1	40.2	41.1	14.1
日本で育った、日本に長く暮らしている		2	4	59	89	85
	%	0.8	1.7	24.7	37.2	35.6

さらに、日本語が話せることがナショナルアイデンティティとどのように関連しているのかを調べるため、ナショナルアイデンティティの下位尺度との関連性について調べたところ、「国家主義」と関連性があることが示された。このことから、日本語が話せることを重視する人は、自分が優れた日本人の一員であるという優越感を抱きやすいことが確認された。

	日本語	国籍	習慣
愛国心	.158*	.234**	.320**
国家的遺産	.163*	.130*	.343**
国際主義	.085	.140*	- .009
国家主義	.214**	.126	.226**

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Kei-ichiro IMAZAI	４．巻 82
２．論文標題 Promoting self-responsibility norms through national identity via procedural justice	５．発行年 2024年
３．雑誌名 Tohoku Psychologica Folia	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kei-ichiro IMAZAI	４．巻 82
２．論文標題 Promoting self-responsibility norms through national identity via procedural justice	５．発行年 2024年
３．雑誌名 Tohoku Psychologica Folia	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関